

令和6年度 園 評 価

(園名) 大垣市立南保育園

【園目標】 豊かな心でいきいきと遊ぶ子	【前年度の成果と課題】 ・コロナ禍よりクラスごとで体を動かしてきたが、今年度は異年齢交流活動を多く取り入れ、より体を十分に動かしていく。 ・友達の良いところ目を向け、認め合える仲間づくりを大切にしていく。 ・一人一人の子に寄り添い、気持ちの代弁に努めてきたが、引き続き一人一人の表情やしぐさを読み取り、言葉による伝え合いを楽しめるようにする。 ・園だより、クラスだよりにて更に写真を多く利用し、分かりやすく伝えるように情報提供し家庭や地域との連携を図る。 ・災害は、いつ起こるか分からないため訓練を真剣に行い、安全な避難方法を常に意識し、全職員で危機管理の意識を高める。 ・命を守る訓練では、訓練の様子を保護者に写真で伝えていくと分かりやすい。
-----------------------------------	---

4段階評価 ○保育者☆関係者

観 点		短期目標(評価項目)	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子 ど も へ の 保 育 ・ 教 育	身 体 的 発 達	<心身ともに元気な子> 園児は、体を十分に動かして遊んでいる。	3	3.8	○登園後、戸外ですぐに遊びだせるように環境設定できた。室内の遊びでは、上の学年のクラスと一緒にサーキット遊びやひっくり返しゲーム等で、進んで身体を動かして遊ぶことができた。 ○幼児は、チャレンジタイムとして、縄跳び・竹馬等、身体を使った遊びをしていくことで、自ら挑戦して取り組めるようになった。未満児は、天気の良い日は、砂場遊びや水遊びを楽しみ、身体を動かして遊ぶことができた。また、園外へ歩いて出掛けることで体力づくりもできた。 ☆年長児のドッジボール遊びを参観したが、機敏な動きで投げたりよけたりしてテンポよく白熱した様子に驚いた。子どもたちにとって、「やったことがある」という経験は、大きな強みとなるので、多様な動きや遊びの場を設定していくことは有効だと思った。 ☆夏の暑い日も、日陰を作ったり送風機をうまく活用したりして、元気に遊ぶ姿がとでも楽しそうだった。室内の遊びでも、鉄棒やフラフープ遊び等で楽しく体力づくりができていていると思った。
	社 会 的 発 達	<友達と仲良く遊ぶ子> 園児は、友達と関わって遊び、友達の良いところを認める。	3.1	3.7	○子どもたちが面白そうと遊びに取り組みだせるように、まずは保育者が遊びを楽しむようにした。年齢が低い子に対しては、一緒に遊ぶことを大切にした。 ○秋頃になると、戸外・室内での遊びも異年齢交流が活発なり、大きい子の様子を見ながら一緒に取り組んだり教え合ったりする姿を見ることができた。 ○気の合う友達といつも一緒にいるため、意図的にグループを変えたり遊びでいろいろな友達と関わることができるようになり遊びを楽しめるようにした。集団遊びや友達と協力して取り組める遊びを取り入れていく。 ☆発表形式の時、友達の姿をしっかりと見ることができていた。また、順番も遊びの中で守って楽しく遊んでいた。ごっこ遊びでは、お互いに話をしながらうまく協力している様子であった。 ☆クラス内での友達との関わりや異年齢の友達との関わり等、場の設定と共に、良いところを見付けて褒める場に数多く出会うようにすることを小学校でも大切にしている。自分自身が、認められること、友達が褒められる姿を見聞きすることで、そういった見方や感覚が育っていくように思った。
	精 神 的 発 達	<考えて取り組む子> 園児は、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりして、言葉による伝え合いを楽しむ。	2.6	3.4	○一つの遊びに向かってクラス全体で進めていきたいが、まだまだ個の遊びで満足している子が多いため、一緒に考えて進めていくことに難しさを感じる。 ○自分の思いをうまく伝えられていない場面では、保育者が子どもたちの気持ちを伝え仲立ちしていくことでお互いの思いに気付けるようになった。 ○一年を通して、それぞれが考えを出し合いながら遊びを進めていく姿がみられるようになってきた。今後も、友達の話を聞けるように繰り返し伝えていきたい。 ☆年齢的にも、大変難しいことであると感じる。日頃の遊びを通して少しでも友達の心を感じたり、自分の気持ちを表現できるようになればと思う。 ☆小学校でも、話し方や聞き方の型を指導し、言葉で伝え合う力をつけていこうと日々努めているが、子どもが自ら伝えたい、知りたい、聞きたいと言う気持ちが強まった時、必然性が生まれた時大きく力を伸ばすことを実感する。行事として位置付く発表会等も、貴重な機会として子どもたちは力をつけ、自信となっていると感じている。
に 子 保 対 育 護 す て 者 ・ 支 家 地 援 庭 域 等 の	連 携 域 と の	園の活動内容を家庭や地域に情報発信し、開かれた園づくりに努めている。	3.1	3.3	○昨年度より、アプリを活用しており、活動の様子をカラー写真で見ることができるようになって保護者の方も喜んでいる。今年度は、更に、アプリの利用を増やし、持ち物、お知らせ、掲示物等を知らせることに活用できた。 ○登降園時に子どもの様子や姿を保護者に伝えて信頼関係を築き、共に育ちを支えていけるよう努めている。今後も、積極的に保護者や地域へ園の活動を発信し開かれた園づくりに励みたい。 ☆若い世代には、アプリの活用が便利なことだと思うので、今後もアプリでの情報発信に努めてほしい。 ☆情報を配信できる配信できるアプリの活用と共に、登降園時に直接対面して情報を共有することの両方を効果的に積み重ねる取り組みがよい関係づくり、ひいては園経営につながっていると感じた。
体 実 制 施 全 運 般 営	危 機 管 理	災害時の避難の仕方を知り、自らの命を守ろうとする態度を身に付けている。	3.1	3.6	○毎月命を守る訓練をいろいろな取り組みで行うことにより、避難の仕方が身に付いてきた。今後、大きな地震が来るかもしれない想定で、更に避難方法の見直しをしていくようにする。 ○園内外を見回り、危険な場所・危険物がないか定期的な点検で怪我を防ぐことができた。多角的な目で見ていくことにより、違うことにも気付いていけるため、今後も全職員で点検していくようにする。 ☆日頃より、いつ起こるか分からない災害に対して、絵本や紙芝居を通して身に付けていけるとよい。 ☆今年度は、保小同日にお迎え訓練が実施できてよかった。様々な場面を想定して小さいころから訓練を経験することで「こういう時はこのように避難する」と言う判断や行動が身に付いていくと感じる。

【次年度に向けて】

- ・友達の良いところを見付けたり褒めたりしていけるような場面を増やし、子どもたち同士でも気づいていけるような目を育てていく。
- ・日頃の遊びを通して、友達の声に耳を傾けることができるような支援方法、思いが少しでも言えるような場面を意図的に作っていける環境づくりを考えていく。
- ・いつ起こるか分からない災害だが、実際に起きた時にはどうしたらよいか絵本や紙芝居を通して分かりやすく伝えていく。又、南海トラフのような大きな地震の想定をし、更に避難の方法を見直していく。